

東京 IPO 特別コラム

2020年9月24日 Vol.166

本格化する令和2年秋のIPO

懸念された台風接近が予想外に東にそれたことで安堵感が出ている今日この頃。秋分の日も過ぎ季節はもう本格的な秋。コロナ禍でいつもとは違った秋を過ごしておられる皆様に本コラムからお伝えすることはまずは令和2年秋のIPOが本格化していること。初値が公開価格割れで始まった雪国まいたけ(1375)を横目に本日はグラフィコ(4930・JQ・公開価格4090円・同株数32.2万株)、まぐまぐ(4059・JQ・同価格810円・同株数68万株)、トヨクモ(4058・M・同価格2000円・同株数55万株)の3銘柄が上場を果たした。折しも海外市場がやや波乱の展開を見せる中でのIPOだけに注目されたが、いずれも人気を呼び順調な始まりを見せたと言えるだろう。

まず上場初日に初値をつけたのは健康食品、化粧品、日用雑貨、医薬品を中心としたファブレスメーカーのグラフィコ。初値は公開価格の2.3倍となる9560円。その後10500円の高値をつけたが終値は8790円と早くも息切れ。出来高は64万株余りで公開株数の約2倍となったが、JASDAQ銘柄のためやや不人気。明日以降も波乱含みの展開を覚悟しておく必要があるそう。これに対してまぐまぐ、トヨクモの2銘柄は上場初日に初値がつかず2日目以降に持ち越しとなった。1863円買い気配で終えた、まぐまぐの場合は業績面や成長性などの評価というより、株価がIPO銘柄としては低位にあり公開金額が5.5億円と小さかったため人気を集めたものと推察される。一方のトヨクモはグループウェアのサイボウズが2番目の大株主であり、認知度向上策で関心を呼んだこともあり88万株の買いを集めて4600円買い気配で終えた。

このところのマザーズ指数が堅調に上昇傾向を辿る中で、このように相変わらず新興市場の中小型IPO銘柄への物色人気は継続していることが読み取れる。水産原料素材調達から製造販売まで手掛ける9月25日公開のSTIフードホールディングス(2932・同価格1900円)、ヘアケア製品、美容家電、化粧品、健康食品のファブレスメーカーであるIne(アイエヌイー)(4933・同価格2890円)から10月27日の育児ママ層向けにアプリを提供するカラダノート(4014)、同月28日の基礎化粧品の製造販売を手掛けるプレミアムアンチエイジング(4934)、認可保育園を展開するさくらさくプラス(7097)までの13の銘柄(うち9銘柄がマザーズ銘柄)が相次いで登場してくる。

全体相場はNY市場の小幅調整の動きから多少警戒感も出ているが、マザーズ市場など新興市場にとっては本日のIPO銘柄の動向から令和2年秋相場はクールな秋ならぬホットな秋となりつつある。直近3年程度の期間に上場を果たした成長意欲の高いIPO銘柄も含めて10月からの東証市場改革の具体的なアクションとして企業の時価総額向上の意欲が高まる中でIPO市場の活況が年末のIPOラッシュまで継続するとの期待をしたい。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)